

観光振興に資する砂防事業の推進

○有珠山噴火災害への対応

平成12年3月の有珠山噴火により、北海道有数の観光地である洞爺湖温泉街が被災し、地域の主要産業である観光に大打撃を与えた。

被災地の真の復興を図るため、地元自治体の復興計画や観光振興構想と一体となった火山砂防激甚災害対策特別緊急事業を平成13年度より実施、導流堤や遊砂地等を整備し、火山と温泉を核とした安全かつ魅力ある観光地の再生を推進する。



有珠山噴火による被災地の全景（手前が洞爺湖温泉街）

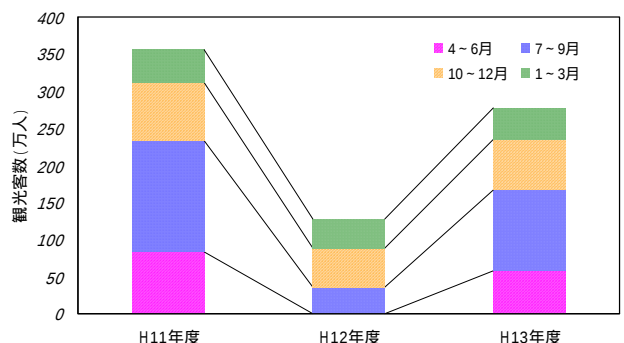


観光振興構想（エコミュージアム構想）と一体となった砂防事業



火口見物に訪れる観光客
（虻田町が遊歩道を整備）

虻田町観光客入込数の年度別推移



観光客数も着実に回復
（H13はH11の約8割に）

グリーン・ツーリズムの取組事例

(1) 京都府美山町

(京都市の北約35km)

約250軒の茅葺き屋根農家が残る伝統的な農村景観を活用し、京阪神の大都市住民によるファンクラブ「かやぶきの里美山と交流する会」等と交流するグリーン・ツーリズムを展開



①取組の概要

町では約250軒の茅葺き農家が残り、町役場が中心となって、「かやぶきの里美山で自然と向き合うゆとりある休暇を」をテーマに、かやぶき屋根農家による民宿の営業を核としたグリーン・ツーリズムを展開。

ア 京阪神の都市住民の有志により結成された「かやぶきの里美山と交流する会」(会員として涼風真世(女優)、桂南光(落語家)等多彩な人材が参加、約200名)が活発な交流活動。

イ 茅葺き屋根の農家建築をテーマとしたイベントの開催。

ウ 陶芸等の体験ができる設備等が整った中核交流施設「自然文化村河鹿荘」を整備。

エ 茅葺きの民家を改築して民俗資料館として「かやぶきの里」を整備。

②成果

ア 成果の概要

- ・年間入込客数は平成6年37万人から平成12年47万人へ拡大し、グリーン・ツーリズムによる地域づくりが伸展。

イ 成功要因

- ・町役場に「村おこし課」を設置するとともに、教育委員会、生活改善グループ等からなる「村おこし推進委員会」を設置し官民一体となった体制を整備。
- ・町役場が、美山町伝統的建造物群地区保存条例、かやぶきの里保存基金条例を制定し、茅葺き民家の保存、かやぶき職人育成のための支援制度を整備。
- ・町役場が、美しい町づくり条例を制定し、美しい景観と住みよい環境づくりを推進するため、土地開発建築等を規制。



美山町の「茅葺き屋根農家群」

町人口	5,466人	町への年間入込客数	471千人
-----	--------	-----------	-------

地場産業を活用した観光地づくりの事例

滋賀県長浜市

(1) 概要

- ・琵琶湖の北東部に位置し、秀吉の長浜築城以来400年間、湖北地方の中心。明治期初期に滋賀県下初の小学校や国立銀行を設立、鉄道を開通させるなど、進取の気性に富み、近畿・中京・北陸3圏の接点として独自の文化を形成。
- ・長浜市では、「地域に点在する歴史的な遺産や資源を現代生活に再生活用し、まち全体を博物館のように魅力ある空間にしよう」とする博物館都市構想をまちづくりの理念として、観光地づくりを展開。

(2) 地場産業の連携

- ・散策型観光地として中心市街地の活性化を図るため、道路の石畳化や店舗の外観を和のイメージで統一するなど、中心市街地の景観再生する観光施策を実施。
- ・特に北国街道では、第3セクター「黒壁」が中心になり商店街整備を進め、ガラスをテーマにした美術館、工房、オルゴール館等の店舗を展開。中心市街の「黒壁ガラススクエア」には年間100万人近い観光客が来訪。
- ・また、地場産業である長浜ちりめん「浜ちりめん」を活かした「長浜きもの大園遊会」を開催するなど、地場産業の和装業と連携した観光振興も展開。

(写真) 黒壁ガラススクエアー



宮崎県西米良村

(1) 概要

- ・西米良村は木材・木炭生産など林業の村として発展してきたが、林業の衰退とともに、急速に過疎・高齢化が進展し、人口1,500人程度の県下で最も小さな村。
- ・豊かな自然ときれいな水があることから、これらをベースとしたコンセプトを策定し、これに基づき山村特有の気候を活かした「花づくりの庄」、雄大なダム湖の有効活用を図る「湖遊びの庄」など、それぞれの資源にテーマ性をもたせ、村全体を休暇村として村民一体となって様々な事業を展開。

(2) 地場産業との連携

- ・村の特産品である柚子を活かし、柚子商品の開発、販売強化に努めるとともに、柚子の木のオーナーになり、柚子の育成、収穫を体験する制度、「ゆずの木制度」を導入。
- ・また、「日本型ワーキングホリデー制度」を実施し、花卉（村の特産品ほおずき等）、柚子栽培農家を中心とする農家が全国から参加者を受入れ、参加者と受入者の双方が対等な立場で交流できるシステムを展開。

(写真)ワーキングホリデー



グリーン・ツーリズムの現状と課題

1 都市住民のグリーン・ツーリズムに対するニーズ

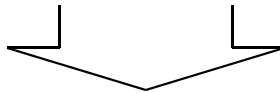
ゆとりある生活、やすらぎ、自然を求めるトレンドを背景に、都市住民のグリーン・ツーリズムに対するニーズが高まっている。

グリーン・ツーリズム

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動

2 多様なグリーン・ツーリズムの展開

平成6年の「農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律」の制定を契機に農林漁業体験民宿を中心に多様なグリーン・ツーリズムが展開



茅葺き屋根等の伝統的な農林漁業体験民宿への宿泊

クラインガルテン（ログハウスを附設した滞在型市民農園）での滞在

稲刈り、そば打ちなどの「農」、「食」体験、また、自然の中での森林浴トレッキング活動や海の恵みを活用した定置網揚げなどの「親水体験活動」

夏休み等を利用した子ども達の長期の農林漁業・農山漁村体験活動

ふるさとまつり等の地域伝統文化行事への参加、直売所、棚田オーナー制度等による交流

3 グリーン・ツーリズムの地域経済への効果

農山漁村地域にとって、グリーン・ツーリズムの進展により、農産物、農産物加工品の販売増加、新たな就業の場の創出等が期待される。

○グリーン・ツーリズムに取り組む市町村が、「期待した程度以上の効果がある」と答えた主な項目

・「観光客による各種波及効果」や「地域特産物の販路拡大」（過半超）

・「新たな雇用機会の拡大」（約4割）

資料：平成12年（財）都市農山漁村交流活性化機構調査（689市町村のアンケート回答結果）

4 グリーン・ツーリズム推進上の課題

（1）都市住民の多様なニーズの把握と農山漁村資源を活用した地域におけるグリーン・ツーリズムのコンセプトづくり

（2）農山漁村から都市への情報発信とネットワーク化

（3）多彩なメニューづくりとそれを支えるインストラクター等人材の育成

（4）地域の条件に応じた魅力ある農山漁村空間の整備

グリーン・ツーリズムの取組事例

(1) 京都府美山町

(京都市の北約35km)

約250軒の茅葺き屋根農家が残る伝統的な農村景観を活用し、京阪神の大都市住民によるファンクラブ「かやぶきの里美山と交流する会」等と交流するグリーン・ツーリズムを展開



①取組の概要

町では約250軒の茅葺き農家が残り、町役場が中心となって、「かやぶきの里美山で自然と向き合うゆとりある休暇を」をテーマに、かやぶき屋根農家による民宿の営業を核としたグリーン・ツーリズムを展開。

ア 京阪神の都市住民の有志により結成された「かやぶきの里美山と交流する会」(会員として涼風真世(女優)、桂南光(落語家)等多彩な人材が参加、約200名)が活発な交流活動。

イ 茅葺き屋根の農家建築をテーマとしたイベントの開催。

ウ 陶芸等の体験ができる設備等が整った中核交流施設「自然文化村河鹿荘」を整備。

エ 茅葺きの民家を改築して民俗資料館として「かやぶきの里」を整備。

②成果

ア 成果の概要

- ・年間入込客数は平成6年37万人から平成12年47万人へ拡大し、グリーン・ツーリズムによる地域づくりが伸展。

イ 成功要因

- ・町役場に「村おこし課」を設置するとともに、教育委員会、生活改善グループ等からなる「村おこし推進委員会」を設置し官民一体となった体制を整備。
- ・町役場が、美山町伝統的建造物群地区保存条例、かやぶきの里保存基金条例を制定し、茅葺き民家の保存、かやぶき職人育成のための支援制度を整備。
- ・町役場が、美しい町づくり条例を制定し、美しい景観と住みよい環境づくりを推進するため、土地開発建築等を規制。



美山町の「茅葺き屋根農家群」

町人口	5,466人	町への年間入込客数	471千人
-----	--------	-----------	-------